

竹上まさと 松阪市長 4年間の実績

★子育て・教育

○学力向上プロジェクトチームを作り学力の向上を図った！

学力テスト H26 年→30 年：最大 6.7 ポイント改善・5 教科平均で全国平均以上に

○教育環境の充実

①全校普通教室等 683 教室にエアコンを導入（幼 H30、小・中 H31）

②小中学校のトイレを洋式化改修（H30・31 年度）

③放課後児童クラブの増設（H26 年 31 クラブ 817 人 ⇒ R 元年 38 クラブ 1,182 人）

④コミュニティ・スクールの推進

⑤民間プールを活用した学校水泳を開始

⑥家庭の事情によって学力に格差がつかないように、生活困窮世帯の小学 6 年生と中学生を対象に「学習室」を 2 か所で開始

⑦「北部学校給食センター」の供用を開始（R 元年 9 月予定）

⑧小学校における英語教育を充実

○健康センター「はるる」を拠点に松阪版ネウボラ ※1 を実施！

①妊娠中から子育てまで途切れず支援を実施！

②松阪版スマートフォン対応「子育てアプリ」を配信（H30 年 9 月～）

③パパママ教室・新米ママ教室等を開催！

④「はるる」で実施する検診等についてはインターネット予約を開始

⑤「産婦健康診査」を開始し、産後も安心して子育てができる支援体制を充実

※1 ネウボラとは、「相談の場」という意味で常に相談できる体制を言います。

○子ども医療関係の充実

①子ども医療費の負担軽減(0～6 歳)と高校生世代まで助成拡大(H31 年 4 月～)

②病児・病後児保育を市内 2 か所に拡大

③小学生のフッ化物洗口を開始(H30 年 4 月～)

④中学生へのピロリ菌検査の実施(H30 年 4 月～)

⑤各種ワクチン接種の助成を拡充

○子ども施策の充実

①子ども局の創設と組織統一（保育園・幼稚園・認定こども園を同一部局化）

②保育園の新設・拡充による定員増（440 名定員増）

③一時預かり保育の創設（2 か所）

- ④子ども発達総合支援センター「そだちの丘」の創立
- ⑤保育士確保のために、就職一時金、勤続報奨金や修学支援金の創設。さらに「保育士の
宿舎借り上げ」や「子育て経験者など多様な人材の活用」を支援
- ⑥すべての公立幼稚園で3歳児保育、給食を開始(H31年4月～)

★産業・経済＜市長自らトップセールス、豊かな暮らしと職場を創生＞

○豊かな産業の育成

- ①新たな企業の誘致：10年ぶりに新たな2企業の進出など立地協定を締結（13社）
総投資額 230億円 新規雇用 460人
- ②本社移転3社を実現
- ②産業支援センター、林業支援センターを開設
- ③「中小企業ハンズオン支援事業」の創設。市内の中小企業1社を選定し、試作品の改良
やマーケティング、販売促進など切れ目なく伴走支援し、企業の経営力向上を目指す
- ④経営管理が行われていない森林について、市が仲介役となり森林所有者と担い手をつな
ぐシステムを構築
- ⑤産業支援センターや市民活動センターが入居する「カリヨンビル」を購入

★まちづくり＜安全で活気のあるまち、お年寄りや障がい者にやさしいまち＞

○安全への挑戦 ＜「災害時の人的被害ゼロ」の実現に向けた取組を推進＞

- ①地域防災計画の見直しで、避難困難地域の抽出の上避難タワーの建設を2か所決定
- ②「防災情報・被災者台帳システム」を導入。発災直後の被災者支援体制を確立
- ③大規模災害を想定した防災小冊子を全戸配布。津波避難地域ごとに避難場所や避難経路
などをまとめた「地区津波避難計画」を策定
- ④産官連携により災害備蓄用非常食「フリーズドライ米」を共同開発
- ⑤「総合雨水対策10ヵ年戦略事業」など、津波避難や風水害への対策を実施
- ⑥「道路事故対策緊急整備事業」により交通事故死減少！

多いときは1年で交通事故死者数21人、交通死者全国ワースト1位だったが、去年は交通
事故死者数6人（全国259都市中ワースト51位）。まだ厳しい状況ではあるが、関係各
所の地道な努力のおかげもあり減少傾向に。

⑦休日夜間応急診療所に土曜日の深夜帯を創設、週3日を実現し安定した「一次救急の診
療体制」を確立

○地域力をさらに充実

- ①鈴の音バスの新規路線の創設で4路線に拡大
地域が主体となって運営する「デマンド型タクシー」制度を創設
- ②三世代の同居・近居を支援する補助事業の創設
- ③「市民大学講座」開講

④「お元気応援ポイント」事業開始

高齢者のボランティア活動に保険料負担軽減のポイントなど

⑤防犯カメラ設置補助金の創設

⑥高齢者の救命活動を素早く行えるように「救急医療情報キット」を配布

⑦ 県内で初めて、“松阪弁”で号令をかける「ご当地ラジオ体操」を制作。市民の皆様に“笑顔と健康”を届けたい

⑧「犯罪被害者支援窓口」を開設。犯罪被害にあわれた方やご家族の方を多角的にサポート

⑨市民の幅広い助け合いを積極的に実践する「新福祉会館」をオープン（H31年4月）

⑩「松阪市版エンディングノート」※2の作成

⑪「豪商のまち松阪 観光交流センター」をオープン（H31年4月）

⑫中心市街地における観光スポットなどに“フリーWi-Fi”の提供開始

⑬空家等対策係を設置。不良空家等の除却費用の助成を開始

⑭狭あい道路の解消を促進し、測量費等の補助を開始

⑮「地域おこし協力隊」を積極的に募集。中山間地域の活性化、移住・定住を促進

⑯奈良県宇陀市や東吉野村と連携し、交流人口の増加をめざした取組を開始

⑰市立図書館と連携し、学校図書室を地域に開かれた図書室に整備

※2 エンディングノートとは、高齢者自身が元気なうちから、自身の気持ちや考えを整理し、残される家族や友人などに思いを伝えるツールを言います。

○新しい行政の形

①「松阪新電力株式会社」を民間企業と共同で設立。ごみ処理施設「クリーンセンター」で“ごみ”を燃やしてできる電気を中心に公共施設へ供給開始

②「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画の策定。観光交流拠点施設の整備など、観光客の増加にも対応し、文化的で活気のある暮らしやすいまちづくりを推進

③松阪駅西地区複合施設計画のワークショップを開催。幅広い年代にわたる参加者の意見を集約し計画を策定

④林福連携による広葉樹苗木の生産モデル事業の開始。地元産クヌギなどの苗木づくりを支援し、林業と福祉施設が連携しながら、苗木の安定供給と障がい者雇用の創出

⑤夜間に観客を入れずにレースを行う「ミッドナイト競輪」を開始

⑥松阪市以南の自治体（6市10町）が連携し、若者定住に向けた地元就職を支援する南三重若者就労支援協議会の創設（会長：松阪市長）

⑦民間事業者等から公民連携につながるユニークな発想や提案を、幅広く一元的に受ける窓口「共創デスク」を設置

⑧超高齢社会に向けた方向性を検討していくため、外部有識者等による「超高齢社会対策検討委員会」を設置

⑨「豪商のまち松阪 観光交流センター」と「旧長谷川治郎兵衛家」、「旧小津清左衛門家」、「原田二郎旧宅」の4施設について、一体的な指定管理者制度を導入

⑩「ふるさと納税」のお礼に地域色を全面にした多彩な返礼品(250品目)を紹介。昨年寄せられた寄附金が6億7千万円を突破

○スポーツの推進

- ①市長杯スポーツ大会の拡充（H26年度：4種目→R元年度：21種目）
- ②全国大会等で優勝・準優勝した場合、その栄誉を称えて松阪駅に横断幕を掲揚
- ③市民参加型フルマラソンを開催予定（R2年度）
- ④県内初の「公共スケートパーク」をオープン（H31年4月）

★市役所改革＜市民のための市役所に＞

○行政改革

- ①大規模な組織改正（15部局→9部局）
- ②事務事業の集約により効率アップ（1000事業→870事業）
- ③数値目標を用いた評価制度を導入し、新しいPDCAサイクルに挑戦
- ④公共下水道全体計画区域の見直しにより約520億円の整備費を削減
- ⑤合併特例事業債の延長を実現し66億円の財源確保

○公共サービスの充実

- ①全国のコンビニで証明書類発行
- ②平日20時まで窓口を開放
- ③「おくやみコーナー」の創設
- ④市役所1階に高齢者・幼児の窓口を移設
- ⑤市役所内に「ハローワーク就労の広場」オープン
子育て世代、障がい者、高齢者、生活困窮者等の働き先の相談
- ⑥「自治体総合アプリ」を導入し、市民ニーズに合った情報をタイムリーに発信
- ⑦国民健康保険の県一元化により、保険料を引き下げ（H30年4月）

★市民の声を聴く＜老若男女と語り合う機会を積極的に＞

- 市民懇談会を4年間で200回突破
- 市内の全5高校を訪れて生徒と語り合う
- 市内11中学校でエアコン・トイレなど教育課題を中心に意見聞き取り会実施
- 市内36小学校で子ども政策を説明するとともに意見聞き取り
- 市内17幼保保護者との懇談会
- 地域行事への出席 1300回

あらゆる機会を通じて市民から意見をうかがう機会を作っています。

太字はリーフレット掲載事項